

早期胃癌研究会が平成 14 年度 日本対がん協会賞を受賞

早期胃癌研究会は、財団法人日本対がん協会(会長：杉村隆 国立がんセンター名誉総長)から、平成 14 年度日本対がん協会賞を受賞した。

日本対がん協会賞は日本対がん協会創立 10 周年を記念して 1968 年に作られ、今年で 35 回目を迎える。がん検診の指導やシステム開発、第一線の検診・診断活動、がん予防知識の普及や啓発活動などに功績があった方々や団体が対象になる。個人は毎年 2 人から数人、団体は 1 ないし複数団体が選ばれる。

平成 14 年度(2002 年)の受賞者は個人 6 人、団体 3 団体に決定し、9 月 13 日に山形市で開催のがん征圧全国大会で表彰式が行われた。

今回の受賞は、40 年間にわたり、わが国の消化器臨床医の症例研究の場として多数の早期消化管癌の症例を検討し、世界に先駆けて早期胃癌をはじめとする早期消化管癌の概念、臨床診断、病理診断法を確立し、日本の消化器癌の検診・治療を先導していること、「胃と腸」誌などに発表された研究会の成果が世界の有名教科書にも数多く引用され早期診断の



教育、啓発、普及に貢献していることが評価されたものである。

早期胃癌研究会は、医師、その他の医療従事者および研究者が、消化管疾患症例を主に診断学的見地から幅広く検討し、診断ならびに治療の向上と普及に貢献することを目的として、月 1 回、主に東京で開催されている。

本賞の受賞については、9 月度の早期胃癌研究会席上で八尾恒良早期胃癌研究会代表(福岡大学筑紫病院消化器科)から報告された。